

バンジョーとシーシャンティ B1 古川幸一

今回の定期演奏会で、バンジョーでの伴奏をすることになり、日々合唱の練習に加え、楽器練習を重ねる毎日です。



若いころからカントリーやブルーグラスといった音楽ジャンルが好きで40年以上前にバンジョーを手にし、3、4年弾いていたものの、35年以上ブランクがありました。キャプテンから練習してみたら、の一言で再び手にしている次第です。

上述のようにバンジョーと言えばアメリカのカントリーやブルーグラスの楽器と思われる方がほとんどですが、実はルーツはアフリカの弦楽器だそうです。バンジョー(五弦バンジョー)の特徴としてネック

の途中からでている弦をもつ同じ構造の弦楽器がアフリカにあり、それが奴隷貿易の流れで、アメリカやイギリスに流れていったそうです。

これらのお話は、現在通っているバンジョー教室の先生(原さとし先生)からお伺いした話です。

米英に渡ったバンジョーの元祖は19世紀には現状のような形になり、現地白人のなかでもブームになりました。イギリスではかなりのブームになり、貴族の中でも弾く人が多くいて、イギリスでも多くのバンジョーが作られたそうです。今やイギリスのバンジョーは全く廃れ、無くなってしまったのですが、上述の原先生がイギリスに散逸していた数百もの古いバンジョーをまとめ、整理され、浜松楽器博物館に収蔵されています。バンジョーのドラムの裏側には所有者名や住所が記載されているようで、“Liverpool”というもあったようです、と言及されていました。



「Thomas Hamilton, Liverpool,
1867 16 Rhyleys Gardens 」とあります。

The Leaving of Liverpool
Arr. by Takako Ishiguro

2 Beat ♩ = 86 (低ければ87で)

Tin Whistle

1 (Guitar) 3 Finger~

3 Finger バンジョー風に

Band Master

A7 (Bass) D D7 G D A7 D A7

これは演奏曲「The Leaving of Liverpool」の楽譜に3 Finger バンジョー風にとの記載と符合しました。イギリスを題材にした曲でもバンジョー風ということが成立するのだなあ。

アメリカに渡ったバンジョーも多くの支持を集めました。19世紀半ばアメリカで流行った minstrel show という楽団がペリーの黒船に乗って日本にやってきました。ギター、

バイオリン、フルート、バンジョー、タンバリンなどで構成された楽団で、黒船では電信機や蒸気機関などの最新技術が紹介されましたが加えて、当時最新のエンターテインメントも紹介されたようです。男声四部合唱の楽譜も残されているそうです。(写真は日本公演時のプログラムと、その様子の挿絵)

UNION PACIFIC STEAM FRIGATE
"POWHEATAN"

An Ethiopian entertainment will be given by the
Japanese Olio Minstrels,
on board this ship, on *Monday* evening, the 7th inst.
weather favorable, to which the Officers invite your attendance.

PROGRAMME.

PART FIRST.
"As Colored 'Gentlemen' of the North."
GRAND OVERTURE.
1. PICAYUNE BUTLER. Mr. Dabney.
2. LADIES WON'T YOU MARRY? " Tripp.
3. SALLY WEAVER. " Dabney.
4. UNCLE NED. " Reeves.
5. SALLY IS DE GAL FOR ME. " De Costa.
6. OH! Mr. COON. " Dabney.

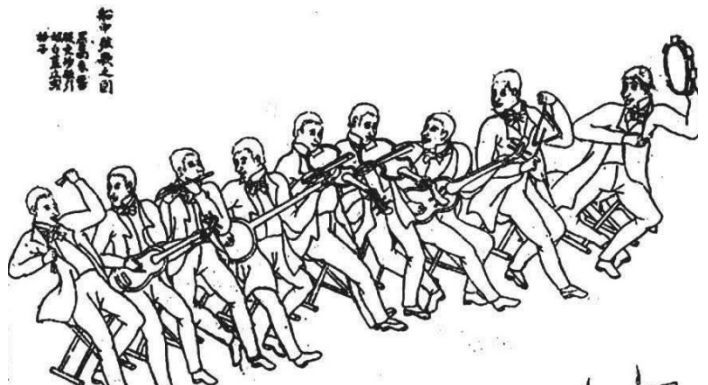
PART SECOND.
"As Niggers of the South."
GRAND OVERTURE.
1. OLD TAR RIVER. Mr. Dabney.
2. MARRA'S IN DE COLD! COLD GROUND. " Pablo.
3. OLD GREY GOOSE. " Tripp.
4. OLD AUNT SALLY. " Dabney.
5. CANAL BOYS. " De Costa.
6. VIRGINIA ROSE BUD. " Dabney.

SOLO ON VIOLIN, by C. McLewee.

The whole to conclude with a burlesque on Balzer's
celebrated play of
THE LADY OF LYONS,
introducing a new and much admired pas de deux, with
the following cast of characters:—
CLAUDE MELNOTTE, alias SAM JOHNSING, Mr. Dabney.
PAULINE alias POLLY ANN, Miss Tripp.
GROVER, Mr. McLewee.
MINSTRELS, &c., By the whole Band.

Manager, Mr. W. J. Dabney.
Musical Director, Mr. C. McLewee.

Performance to commence at 8 o'clock, precisely.
JAPAN EXPOSITION PRESS.



これは私の推測ですが、長期間の黒船の船旅の中で、バンジョーはシーシャンティの伴奏にも使われていたんだろなあ、また、当時米英で結構メジャーな楽器だったので、シーシャンティをはじめ、いろんな曲の伴奏をしたんだろなあ、と思った次第です。

アメリカに伝わっていたバンジョーは上述の minstrel show をはじめジャズや黒人霊歌などでも使われたようです。そして、マンドリンと融合されたものが四弦バンジョーだそうです。(私は元々四弦バンジョーがあって、それが発展して五弦バンジョーが生まれたと思ってましたが、逆でした。)デキシーランドジャズで使われているのはこの四弦バンジョーです。

最後に、もうすぐ定演です。合唱の頑張りはもちろんなんですが、楽器で皆さんの足を引っ張らないよう練習します。

以上